

令和8年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	28	学校名	茨城県立笠間高等学校				課程	全日制		学校長名	谷島 賢一						
教頭名	加藤 浩二										事務長名	友部 久美子					
教職員数	教諭	33	養護教諭	1	常勤講師	8	非常勤講師	22	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	75	
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		36	27	34	32	39	41			109	100	7				
	美術科		5	20	1	22	8	17			14	59	3				
	メディア芸術科		6	21	5	24	4	20			15	65	3				

2 目指す学校像「伝統の継承とさらなる躍進」

- あいさつや礼儀を尊び、誠実な人間を育てる学校
- 常に勤勉な態度を養い、職業人として必要な学力を育てる学校
- 自主自律の精神を育み、一人一人の進路希望を実現する学校
- 普通科、美術科・メディア芸術科が切磋琢磨し、教育の質を高められる学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 「卒業までにこのような生徒を育てます」 ◇何事にも誠実に向き合い、挨拶や礼儀を尊び、職業人としての必要な力を有する生徒 ◇これからの社会を自律した大人として、楽しく力強く自分らしく生きていける生徒 ◇地域に誇りと愛情を持ち、社会を動かして高めていく行動ができる生徒
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 「このようなことを学びます」 ◇共通： 3つの学科の高校として、多様な価値観を持つ生徒が学び合い切磋琢磨し合いながら、社会性・人間性を育てます。 ◇普通科： 体験活動や地域交流を通し、自ら課題を発見し、主体的に解決を図ろうとする力を養います。 多様な目標の実現に向けて、インターンシップや検定への積極的にチャレンジすることによって社会で発揮できる力の基礎を高めます。

	◇美術科： 絵画、デザイン、陶芸の分野を専攻として、それぞれ専門家の教員からの実技指導を少人数編成授業で行います。作品制作に打ち込める環境を生かして、思考力や表現力、創造力、豊かな感性などを磨き、切磋琢磨しながら、自分らしさを表現する力や他者に伝える力、他者と関わる力を養います。 ◇メディア芸術科： 写真、映像、CGの分野を専攻として、それぞれの専門家の教員からの実技指導を少人数編成授業で行います。表現力、創造力、豊かな感性を磨き、作品制作に打ち込める環境において他の生徒と刺激し合いながら、自分らしさを表現する力や伝える力を養います。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 「このような生徒を求めます」 ◇自らの可能性に向かって自分としっかり向き合い、物事に真剣に取り組む生徒 ◇多様な価値観に触れることで視野を広げ、自分の特性についての理解を深めたい生徒 ◇美術科・メディア芸術科： 美術の専門性を高めたい生徒、将来美術・メディアの分野で仕事をしたい生徒、作品制作が好きな生徒、美術・メディアの分野で社会貢献したい生徒、美術系・メディア系の大学の進学を志望する生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	- 授業時間が確保され、授業の規律は概ね保たれている。 - 中学校段階までの基礎学力の定着が不十分な生徒や、多様な支援を必要とする生徒がいる。	- 基礎学力の定着を図るための指導方法の工夫改善 - 家庭学習の習慣化による学習習慣の確立 - 多様な支援を必要とする生徒への支援体制の充実 - 生徒に進路目標を明確化させることによる学習意欲の向上
進路指導	- 就職希望者の100%が就職を決定した。 - 進学希望者の98.6%が進学を決定した。 - 国公立大学4名を含む25名が大学に合格した。 - 進学が59%、就職が38%と進学者が増加している。	3年間を見通した体系的キャリア教育計画の充実 - 進路実現に向け、主体的に取り組み、努力することができる生徒の育成 - 一般入試にも対応できる学習指導体制の確立
生徒支援	- 服装頭髪指導の徹底により、身だしなみの乱れは少なく、落ち着いた学校生活が送れている。 - カウンセリングや多様な支援の必要な生徒が増加している。	- 教員、保護者及び外部機関等との密な連携による予防的生徒指導の充実 - 生徒や保護者との話し合いながらのルール作り - 生徒面接やスクール・カウンセラー及びスクール・ソーシャル・ワーカーの活用による教育相談の充実と、多様な研修の充実
特別活動	1年生には積極的に部活動への加入を勧めているが、部活動の定着率があまり高くない。 「笠高キッズ」などの地域連携行事や笠間駅周辺の清掃ボランティア活動等に参加を希望する生徒が増えてきている。	- 部活動運営方針に則った部活動の効果的な活動と定着率の向上 - キャリア・パスポートを活用した自己理解・自己管理能力の育成 - 地域連携行事における生徒の関わり方の拡充と支援体制の充実

働き方改革	・令和7年度の時間外在校等時間月平均時間 23 時間 55 分、月平均 45 時間超過者の割合 10.4%、月平均 80 時間超過者割合 1.7%であった。 ・業務の効率化や精選を図り、超過勤務時間の減少を目指す。
-------	---

5 中期的目標

- ① 学習指導の工夫や生徒指導の充実を通して、基礎学力と基本的生活習慣を確実に身に付けさせる。
- ② 「チャレンジ・プロジェクト」における取組を通して、人間として必要な教養を身に付けさせるとともに、生徒一人一人の能力を引き出して活力ある学校づくりを進めていく。
- ③体系的キャリア教育のグランドデザインを明確にして3年間を見通した進路指導をとおして、生徒の自己実現に必要な力を育てる。
- ④家庭・地域との強固な連携により教育活動を活性化し、生徒の自己肯定感を高めるとともに、情報発信を通じて地域に根ざした開かれた学校を実現する。
- ⑤教師が心身共に健康であるために、働き方改革を推進する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎学力の定着及び学力の向上に向けた取組の充実と、多様な支援を必要とする生徒への支援体制の整備	①アクティブ・ラーニングを中心とした授業形態の工夫・改善を積極的に行うことにより、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を充実させ、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。 ②生徒の興味関心を引き寄せる授業やICT（電子黒板等）を活用した授業等、日々研鑽した授業を展開することにより、授業の楽しさを伝え、学習習慣の確立や学力の向上を図る。 ③家庭や関係機関との密な連携や情報の共有化を通して、多様な支援を必要とする生徒に対する学習支援や適切な対応に努める。
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	④生徒の「主体的な学び」を引き出す授業実践のために、相互授業参観や校内研修を実施する。 ⑤生徒による授業評価において全項目 3.5 以上
問題行動の未然防止や新たな課題への迅速な対応及び家庭や地域等との連携の強化	⑥個に応じたきめ細かな指導を行うとともに教育相談体制の充実を図る。また、学年間、教員間での統一した生徒指導を行うことにより、非行やいじめの未然防止を始め、SNSトラブルやスマホ利用をめぐる問題や課題にも迅速に対応する。 ⑦家庭、地域社会及び関係機関との連携強化を図るとともに、情報共有のもと協力して生徒指導を行う。
主体的な進路選択と、その実現のための具体的道筋を考え行動する意識と態度の育成	⑧3年間を見通した体系的進路指導を計画的に実施することで、望ましい勤労観・職業観、進学や就職に対応できる力を育成する。 ⑨インターンシップや各種講話、「チャレンジ・プロジェクト」に係る取組等を通して主体性を育み、進路実現のための意識と態度の育成を図る。 ⑩学習段階に応じて生徒の資格取得を推進し、進路実現に向けた指導を行う。1年に1資格、卒業までに3資格取得を目標とする。

心の教育の推進と特別活動の充実	⑪奉仕活動、異校種学校との交流、地域連携行事への生徒の主体的参加を支援し、心の教育の充実と生徒の社会性の確立に努める。 ⑫部活動や生徒会活動への主体的、積極的な参加を促し、生徒の活力を引き出すとともに、礼節や規律を重んずる態度を養うことで、豊かな人間性を育む。
美術科・メディア芸術科の教育活動の充実	⑬質の高い指導と様々な体験活動を通して、美術や映像メディアに関する技量を伸ばし、美術や映像メディア系大学への進学を実現させる。 ⑭「チャレンジ・プロジェクト」に係る取組を通して、美術科とメディア芸術科の教育内容のさらなる体系化と充実を図る。 ⑮美術科・メディア芸術科に関する教育活動の積極的な広報活動を行う。
地域からの期待と信頼に応えるための積極的な教育活動	⑯様々なメディアを通して、学習指導や生徒指導における実践と成果、生徒の課外活動の様子など、本校の教育活動についての情報発信に努める。 ⑰特色ある学科を有する笠間高校の様子や未来像を、様々な機会をとらえて地域社会に発信することで、魅力ある学校づくりに資する。
働き方改革の推進	⑱業務改善と校務の効率化を図り、教育環境の整備と働きやすい職場環境づくりを行う。